

ミカンサビダニの被害と薬剤の効果

ミカンサビダニによる果実での被害が、6月下旬の早い時期から11月頃の遅い時期まで見られている。気温が高く降雨が少ない状況では、発生が継続し被害が急増する場合があるため注意が必要である。

○果実の被害



写真1 前期被害(左)と後期被害(右)

6月や7月の早い時期に加害されると、褐色がかった灰白色の象皮状になり、これ以降では黒褐色から茶褐色の被害となる。



写真2 越冬状況(左)と葉での被害(中、右)

新葉ではちりめん状のしわが生じ、後には葉裏が褐色となる。

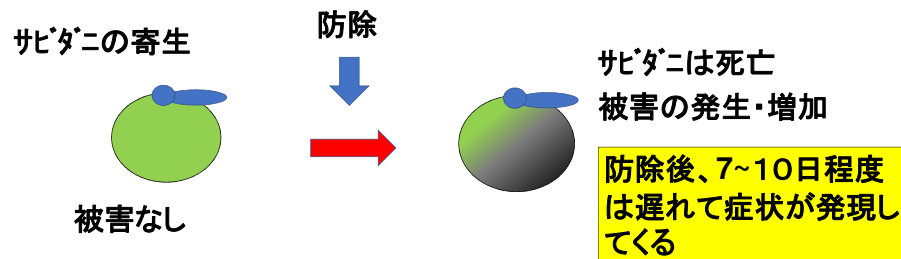
○防除

愛媛県病害虫等防除指針に掲載されている主要なミカンサビダニに登録のある薬剤は、常用濃度において高い効果を有していると考えられる。

表 ミカンサビダニに対する薬剤の効果

	サンマイル 水和剤	ダニケッター フロアブル	ダフルフェース フロアブル	コテツ フロアブル	アグリメック	マッチ 乳剤
供試濃度	3000	2000	2000	6000	2000	3000
補正死亡率	100	100	92.5	97.5	99.3	93.4

※宮川早生果実に寄生するミカンサビダニに対し、所定の濃度の薬剤を散布し、48時間後に生死を判定した。



果皮の症状は遅れて発生するため、防除後も被害が増加している様に見えることもある。追加の防除は効果(被害の増加や寄生の有無)を見極めてから行う。